

平成 30 年 7 月豪雨災害 派遣保健師活動報告書



平成 31 年 3 月

健康医療局保健医療部健康増進課

1	目的	1
2	平成30年7月豪雨災害の概要	1
3	派遣場所（愛媛県大洲市）	1
	（1）概要	
	（2）主な被害状況	
4	災害発生から派遣終了までの経過	3
5	保健師活動の概要	5
	（1）活動スケジュール	
	（2）一日の流れ	
	（3）主な活動内容	
	（4）主な活動結果	
6	各班の活動報告	7
7	保健師派遣活動における課題	20
	（1）各保健福祉事務所・センター	
	（2）市町	
	（3）健康増進課	
8	報告会等	21
	（1）平成30年7月豪雨の神奈川県支援 報告会	
	（2）平成30年7月豪雨災害に係る派遣職員フォローアップミーティング	
	（3）平成30年7月豪雨災害に係る派遣職員の活動報告会	
9	その他	23
	（1）報告会資料	
	（2）日々の活動記録様式	
	（3）地域保健・健康増進事業報告様式	
	（4）持参物品	

1 目的

本県では、平成 30 年 7 月豪雨災害に係る愛媛県からの派遣要請を受け（厚生労働省経由）、平成 30 年 7 月 24 日から、2 回の延長要請を経て、9 月 17 日までの 56 日間、愛媛県大洲市に 11 班の保健師チームを派遣した。班編成は、保健師 2 名と事務連絡員 1 名の計 3 名。6 班からは、市町村保健師と県保健師の構成とし、6 名の市町村保健師と 16 名の県保健師の計 22 名を派遣した。

豪雨災害に係る愛媛県大洲市支援活動を振り返り、今後の災害時保健師活動の資料とするため、報告書を作成した。

2 平成 30 年 7 月豪雨災害の概要

平成 30 年 6 月 28 日から 7 月 8 日にかけて、西日本を中心に、全国的に広い範囲で記録的な豪雨が発生した。この大雨で 1 府 10 県（岐阜県、京都府、兵庫県、岡山県、鳥取県、広島県、愛媛県、高知県、福岡県、佐賀県、長崎県）に特別警報が発表された。

愛媛県内では、記録的な降水量となり、各地で土砂崩れや河川が氾濫した。一級河川・肱川は、7 月 7 日に氾濫し、大洲市内の広い範囲で住宅が浸水した。

3 派遣場所（愛媛県大洲市）

(1) 概要

大洲は、伊予の小京都と呼ばれ、市の中央部を清流「肱川」が流れ、昔ながらの街並み残り、美しい田園風景や山並みが特徴。（大洲市ホームページより）

人口	43,825 人
男	20,921 人
女	22,904 人
世帯	20,061 世帯

（平成 30 年 6 月 30 日現在）
出典：大洲市ホームページ

	出生		死亡		婚姻		離婚	
	実数 (人)	率 人口千対	実数 (人)	率 人口千対	実数 (人)	率 人口千対	実数 (人)	率 人口千対
大洲市	308	7.0	644	14.6	171	3.9	73	1.7
愛媛県	10,146	7.3	17,585	12.7	6,102	4.4	2,395	1.7

平成 27 年人口動態調査確定値
出典：愛媛県八幡浜保健所ホームページ

	人口(人)	総人口に対する割合(%)
年少人口(15歳未満)	5,370	12.2
生産年齢人口(15 - 64歳)	23,586	53.5
老年人口(65歳以上)	14,715	33.4
年齢不詳	415	0.9
総数	44,086	100.0

総務省統計局「国勢調査報告」/H27.10.1
出典：統計からみた大洲市のすがた

総面積(H28)	可住地面積(H28)	
		林野面積(H27)
km ²	km ²	km ²
432.22	117.01	315.21

出典：統計からみた大洲市のすがた

(2) 主な被害状況(8月31日 大洲市災害対策本部資料より抜粋)

ア 人的被害

区分	人数
死亡	4
安否不明	1

イ 物的被害

(ア) 住家

区分	棟数
床上浸水	2,296
床下浸水	818

(イ) 土砂災害

土砂崩れ 58か所

ウ 避難状況

避難所数	世帯数	人数
14	75	132

4 災害発生から派遣終了までの経過

月 日	連絡ルート	経 過
平成30年 7月8日(日)	厚生労働省 →健康増進課	被災地都道府県・広島県への派遣調整について、厚生労働省健康局保健指導室長からの要請により、平成30年7月12日(木)～8月2日(木)の派遣協力について照会を受ける。
7月9日(月)	健康増進課 →厚生労働省	派遣が可能である旨回答する。
7月9日(月)	厚生労働省 →健康増進課	現時点での派遣協力は不要との連絡あり。
7月17日(火)	厚生労働省 →健康増進課	被災地都道府県・愛媛県への派遣調整について、平成30年7月21日(土)～8月5日(日)の派遣協力について照会を受ける。
7月17日(火)	総務室 →保健福祉事務所・センター	保健師チーム派遣に向けて、保健師の調整を依頼する。
7月17日(火)	健康増進課 →厚生労働省	派遣が可能である旨回答する。
7月18日(水)	厚生労働省 →健康増進課	派遣期間を平成30年7月24日(火)～8月8日(水)に変更依頼を受ける。
7月18日(水)	総務室 →関係所属	職員派遣(1～3班)について、依頼する。
7月18日(水)	厚生労働省 →健康増進課	事務連絡「保健師の派遣先自治体の調整結果について」を収受する。
7月19日(木)	健康増進課 →愛媛県	愛媛県に派遣当日の動きや現地状況について、確認する。
7月19日(木)	総務室 →県内市町村	被災者支援のための職員派遣について情報提供。協力を依頼する可能性があることについて連絡する。
7月23日(月)		派遣前オリエンテーション実施(1～3班対象)活動に使用する物品搬送の車両が発券する。
7月24日(火)		派遣開始
7月29日(日)	愛媛県 →健康増進課	派遣期間の延長(8月末まで)を打診される。
7月30日(月)	総務室 →県域市町村	派遣期間延長に伴う市町村保健師の派遣可否を照会する。
7月31日(火)	総務室 →関係所属	職員派遣(4～7班)について、依頼する。

月 日	連絡ルート	経 過
7月31日(火)	健康増進課 →愛媛県	派遣期間延長（8月27日まで）について対応可能である旨回答する。
8月1日(水)	総務室 →県城市町村	保健師派遣の調整結果について、報告する。
8月6日(月)		派遣前オリエンテーション実施（4～7班対象）
8月17日(金)	愛媛県 →健康増進課	派遣期間の延長（9月末まで）を打診される。
8月20日(月)	総務室 →保健福祉事務所・センター	保健師チーム派遣延長に伴う調整を依頼する。
8月20日(月)	総務室 →県城市町村	派遣期間延長に伴う市町村保健師の派遣可否を照会する。
8月20日(月)	健康増進課 →愛媛県	派遣期間延長（9月27日まで）について対応可能である旨回答する。
8月22日(水)	総務室 →県城市町村	保健師派遣の調整結果について、報告する。
8月24日(金)		派遣前オリエンテーション実施（8班～9班対象）
9月3日(月)		派遣前オリエンテーション実施（10班～13班対象）
9月12日(水)	愛媛県 →健康増進課	派遣終了を打診され、合意。9月17日（11班）をもって終了することで調整する。
9月13日(木)	健康増進課 →厚生労働省	派遣を9月17日で終了する旨報告する。
9月17日(月)		派遣終了



5 保健師活動の概要

(1) 活動スケジュール（6泊7日）

日数	活動内容
1日目	羽田空港集合。空路で松山空港に移動。 松山空港からレンタカー（または公共機関）で大洲市保健センターに移動。 大洲市保健センターに挨拶後、引継ぎ。
2日目	引継ぎ 前班をレンタカーで松山空港に送り。 活動
3日目 ～ 5日目	活動
6日目	活動 松山空港にレンタカーで次班の迎え。引継ぎ。
7日目	引継ぎ。 松山空港にレンタカー（または公共機関）で移動。 松山空港から空路で羽田空港に移動。解散。

(2) 一日の流れ

時間	活動内容
8時30分	情報収集・活動準備
9時00分～	ミーティング
9時30分～16時00分	避難所巡回、健康相談、家庭訪問、活動記録等
16時00分～	ミーティング 記録整理、翌日の準備、定時連絡

(3) 主な活動内容

ア 避難所における活動

- ・ 健康課題の把握
- ・ 巡回による健康相談
- ・ 熱中症予防や感染症予防等の普及

イ 被災者への家庭訪問による保健指導

- ・ 要支援者フォローのための訪問

ウ 応急仮設住宅入居者等への健康調査

(4) 主な活動結果

ア 保健・栄養指導

対象	実延	件数
20歳未満	実	2
	延	2
20歳以上	実	138
	延	138

イ 精神保健福祉相談

内容	実延	件数
こころの健康づくり	実	47
	延	47
その他(うつ)	実	1
	延	2

ウ 職員の健康相談

	件数
相談者	7
血圧測定	6



6 各班の活動報告

(1) 1班

項目	内容
活動期間	平成30年7月24日から7月30日 (発災17日目～23日目)
保健師活動の概要	大洲市保健センターを活動拠点とし、避難所5か所を担当 <ul style="list-style-type: none"> ・避難所管理者との連絡調整、避難所情報の把握 ・避難者への情報提供 ・感染症・食中毒予防のための環境整備 ・健康相談、家庭訪問等から市の事業や医療への橋渡し
班員の役割分担	保健師： <ul style="list-style-type: none"> ・避難所等被災住民への健康支援。 ・朝夕ミーティング他で活動内容を大洲市に報告する。 連絡調整員： <ul style="list-style-type: none"> ・運転用務。健康支援に必要な環境を整える。
他自治体等派遣チームの活動	<ul style="list-style-type: none"> ・岩手県、宮崎市の保健師チーム:避難所の健康支援 ・愛媛県看護協会災害支援ナース:避難所巡回相談と福祉避難所当直 ・日本栄養士会災害支援チーム(JDA-DAT):特別食の支援と巡回相談 ・愛媛県薬剤師会:各避難所へのニーズ調査
活動を通じた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・平時から災害を想定した所属の体制や対応を具体的に考えておくこと、日ごろから保健所と市町村で検討する場を持つこと、地域の情報を整理しておくこと等、本県の受援体制を考えておくことが必要。
派遣保健師の生活で留意した点	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日、班員の健康状態を確認した。
感想	<p>【リーダー保健師】 現地での「情報の見える化」や「ミーティングによる専門職の連携」は、活動にたいへん有意義でした。</p> <p>【メンバー保健師】 必要な情報を収集し、派遣保健師の役割や活動内容を避難所等に伝え、後続チームがスムーズに活動できる土台づくりすることが大切だと感じた。改めて平時の活動の重要性を感じました。</p> <p>【連絡調整員】 災害を受け大変な状況の中、大洲市の方々が県内外の支援チームの役割を明確にして受け入れていたことが、スムーズな支援につながっていると感じました。</p>

(2) 2班

項目	内容
活動期間	平成 30 年 7 月 29 日から 8 月 4 日 (発災 22 日目～28 日目)
保健師活動の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5 か所避難所の健康管理 避難所に 1～2 日に 1 回訪問し健康相談を実施。 健康状態要フォロー者の状態確認 避難所内の環境整備の助言 ・ 担当避難所地域の家庭訪問 自宅片付け中の避難者への家庭訪問による健康支援 ・ 市役所り災証明申請場所での健康相談 ・ 地域災害医療対策協議会への出席
班員の役割分担	<p>保健師：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 避難所の健康支援、記録、報告、り災証明窓口での健康相談 (リーダー保健師：スケジュール管理、連絡窓口、班員の健康管理) <p>連絡調整員：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 運転、前渡金管理、写真撮影、総務室との連絡窓口
他自治体等派遣チームの活動	<p>岩手県：(保健師) 肱川地区の避難所と住民の健康管理 (事務職) 肱川保健センターデータ復旧作業</p> <p>宮崎市：避難所の健康管理、家庭訪問、市役所健康相談</p>
活動を通じた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後の派遣活動への課題 派遣前に現地の状況を的確に収集することで、現地で必要な物品を選定し、適当な車両を選定することが可能。 ・ 体制(平時・発災時)や所属機関の現行整備に対して思うところ管内の市町村へ早期支援できるよう、平時からリエゾンも含め、保健福祉事務所の支援体制の検討及び共同訓練が必要。 派遣経験のある保健師が少なくなるため、経験値の継承機会が必要。
派遣保健師の生活で留意した点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 7 月から 8 月の派遣のため、熱中症対策、食事に配慮した。 ・ 宿泊地から被災地まで車で 1 時間程度かかり、市街地の渋滞が読めないこともあり、朝は特に早めの行動を心掛けた。
感想	<p>【リーダー保健師】派遣先の思い・体制に寄り添う活動を各班が継続することの大切さを改めて感じた。</p> <p>【メンバー保健師】愛媛県庁、管轄保健所、DHEAT による被災市への支援が的確でタイムリーだった。当県の活動に反映したい。</p> <p>【連絡調整員】初めての災害派遣で、不安を抱えたままの派遣となったが、自分にできる範囲で保健師のサポートを行えたと感じている。</p>

(3) 3班

項目	内容
活動期間	平成30年8月3日から8月8日 (発災27日目～32日目)
保健師活動の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所のアセスメントや健康管理 ・避難所管理者との連絡調整 ・要フォロー者の健康状態の把握
班員の役割分担	保健師： <ul style="list-style-type: none"> ・リーダー保健師は、市や避難所管理者等関係機関との調整を実施。 ・記録は、県・市への報告書と個別ケース記録を2人で分担。 連絡調整員： <ul style="list-style-type: none"> ・運転、県庁への報告、情報の整理、保健師のサポート等
他自治体等派遣チームの活動	<ul style="list-style-type: none"> ・他県、市の派遣保健師（宮崎市、岩手県）：神奈川県同様、担当避難所が割り振られており、避難所のアセスメントや健康管理、要フォロー者の家庭訪問を実施。 ・災害支援ナース：日中の派遣保健師等の活動報告を受けた後、夜間に訪問でフォロー者の支援を実施。 ・ERAT（愛媛県災害リハビリテーション連絡協議会）、JDA-DAT（日本栄養士会災害支援チーム）：保健師の活動中においてニーズを感じたケースに対応。保健師と同行訪問することもあった。
活動を通じた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・被災地自治体の意向を正しく理解し、それに沿った活動をすることは重要であり、そのためには様々な側面から情報を得て、アセスメントをする能力を磨いておく必要がある。 ・平時から家庭訪問等積極的に行い、保健師としての能力を高める必要がある。 ・所属として地域情報を整理し、地図等にまとめ発災時に活用できるように工夫する必要がある。また、被災地になることを想定し、災害が起きた時の体制を組んでおくなどの準備が必要である。
派遣保健師の生活で留意した点	<ul style="list-style-type: none"> ・活動前後には、班員同士で体調確認を実施。 ・酷暑の中、家庭訪問等の活動をしたため水分や塩分摂取をお互い促した。
感想	<p>【リーダー保健師】DHEATの支援後に被災地に入ったことで、情報の整理の仕方や情報の共有の仕方など具体的に学ぶことができた。災害に向けた平時からの準備の重要性を実感した。</p> <p>【メンバー保健師】被災地に行ったことによって、平時からの準備</p>

項目	内容
感想	の必要性を改めて痛感した。神奈川県 <small>の</small> 保健師としてできることを考えていきたい。

(4) 4班

項目	内容
活動期間	平成30年8月7日から8月13日 (発災31日目～38日目)
保健師活動の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・5か所の避難所を回り、被災者や職員の健康相談を実施。 ・要フォローの被災者が帰宅している場合は自宅を訪問。 ・市営住宅(再建前)で生活している被災者の全戸訪問。 ・保健センターでの避難所運営や保健師活動に関する臨時会議に出席。 ・7日間で相談56件、訪問38件実施した。
班員の役割分担	<ul style="list-style-type: none"> ・神奈川県に提出する日報の作成と電話報告はリーダー保健師が担当。大洲市の活動記録作成と市への報告はメンバー保健師が担当。連絡調整員は調整員としての役割全般を担当。
他自治体等派遣チームの活動	<ul style="list-style-type: none"> ・岩手県が上流地域、神奈川県が中流域、宮崎市が下流域を担当。 ・夜間巡回看護師が毎日18～20時に避難所を巡回。 ・JRATよりPT、OTが日替わりで参加。
活動を通じた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・現地の店が再開していたので、水などの資材は不要だった。 ・被災地は道路状況が悪いので、小型車の方が活動しやすい。
派遣保健師の生活で留意した点	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝班員の健康状態を確認。活動中もお互いに健康に気を付けた。 ・暑い時期だったので、水分補給を心がけた。 ・昼に避難所に戻る被災者に会うために、昼に訪問した。自分たちの昼食の時間が遅くなるため、朝食を多めに摂った。
感想	<p>【リーダー保健師】岩手、熊本に続いて3度目の派遣だった。被災状況や役割は異なるが、現場の状況に合わせて臨機応変に活動できたと思う。チームワークが良く、効率的に充実した活動ができた。</p> <p>【メンバー保健師】初めての派遣であったが、被災地での保健師活動という貴重な経験ができた。また、避難所で生活を送ることができない人への支援がより必要と感じた。</p> <p>【連絡調整員】現地入りした際には発災から時間が経過していたが、それぞれの段階で必要な支援は様々であり、必要なものを必要な時に支援する重要性や難しさを感じた。</p>

(5) 5班

項目	内容
活動期間	平成30年8月12日から8月18日 (発災36日目～42日目)
保健師活動の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所巡回による避難者への健康相談及び健康状態の確認。 ・家庭訪問による健康相談及び健康状態の確認。(日中自宅に戻っている避難者、避難所を退所した被災者、避難所地区の要支援者) ・避難所職員の健康相談及び健康状態の確認。 ・市役所での罹災証明受付・発行に合わせて健康相談。
班員の役割分担	<p>保健師：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地記録(現地へ提出する日報、相談記録等) ・避難所巡回・家庭訪問については、はじめは2人1組で実施していたが、後半は、二手に分かれて実施し、効率化を図った。 (リーダー保健師：ミーティング報告、日報、避難所電話連絡等) <p>連絡調整員：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運転、家庭訪問の地図調べ、支援物資運搬、現地から依頼の入力作業・活動状況(写真・日報)撮影および報告等。
他自治体等派遣チームの活動	<ul style="list-style-type: none"> ・岩手県・宮崎市：担当の避難所被災者への健康相談、巡回訪問。 ・愛媛県看護協会災害支援ナース：避難所巡回健康相談。夜間帯に活動していたので、日中会えなかったり、要フォローケースについて支援を依頼した。 ・日本栄養士会災害支援チーム(JDA-DAT)：特別職の支援及び避難所巡回相談。 ・JRAT・ERATチーム：避難所及び被災者健康相談・巡回訪問。
活動を通じた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・受援体制について、支援方針や記録の管理方法(避難所地域ごとのファイリング)、ミーティングの持ち方について参考になる事が多かった。被災自治体職員が疲弊しないような配慮、方法について学ぶことがあった。 ・次チームの到着は夕方の方が良いと感じた。午前到着だと、連絡調整員が迎えに行くため、車が使えず、午前の活動が制限されてしまう。
派遣保健師の生活で留意した点	<ul style="list-style-type: none"> ・浸水後の粉塵対策の必要性の有無等、前チームからの現地状況の引継ぎが役立だった。 ・気温が高かったため、訪問時の日よけや水分補給を行い、熱中症対策を行った。移動が多く、昼食時間がずれることがあったが、

項目	内容
派遣保健師の生活で留意した点	<p>時間の確保に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々メンバーで声を掛け合いながら体調に配慮して行うことが大切。
感想	<p>【リーダー保健師】 日々の全体ミーティングや市の担当保健師との打ち合わせにより、避難所や要支援者の課題について情報共有・伝達ができ、市で責任を持ち対応してくださり、大変スムーズに活動ができた。また、派遣を通して被災者の方々から直接被災状況を拝見し、お話を聴かせていただいた体験は貴重であり、今後の災害時保健師活動に活かしたい。</p> <p>【メンバー保健師】 今回は水害であり、被災者を取り巻く状況や精神状態等、災害による違いを感じた。現地の人から直接聞いた発災時の状況や体験等は、報道等では知りえない部分があり、被災者から教わる事が多く、自身の支援の在り方についても考えさせられた。</p> <p>【連絡調整員】 調整員として初めて保健師活動に同行させていただき、被災者に対する接し方の難しさ、保健師職の重要性を感じた。慣れない車と道での運転だったが、引継ぎ時に前班の調整員の運転で避難所を一通り巡回できたため、その後非常に活動しやすかった。</p>



(6) 6班

項目	内容
活動期間	平成30年8月17日から8月24日 (発災42日目～49日目)
保健師活動の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所巡回、避難所状況の確認。 ・避難所利用者、職員の健康状態確認。 ・自宅に戻った方の訪問を行い健康状態の確認。 ・健康相談からの依頼により要フォロー者の自宅訪問。
班員の役割分担	<ul style="list-style-type: none"> ・神奈川県に提出する日報の作成と電話報告はリーダーが担当。大洲市の活動記録作成と市への報告はメンバーが担当。連絡調整員は調整員としての役割全般を担当。
他自治体等派遣チームの活動	<ul style="list-style-type: none"> ・岩手県が上流地域、神奈川県が中流域、宮崎市が下流域を担当。 ・夜間巡回看護師(愛媛県看護協会)が避難所を夜間巡回。 ・日本栄養士会が避難所巡回。
活動を通じた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊地で駐車場を毎日確保することが大変だった。 ・台風など活動に影響が及ぶことが予想される場合は活動変更等早めの判断が必要。 ・被災前から生活上に課題を抱えており、ベースの健康状態も悪い方への健康管理が課題となっていた。
派遣保健師の生活で留意した点	<ul style="list-style-type: none"> ・活動中は水分補給、休憩を適宜とるように注意した。 ・活動終了後は気持ちの切り替え、休息に努めた。
感想	<p>【リーダー保健師】通常業務と災害支援業務を同時進行する職員の方の負担の大きさと災害から生活を立て直すことの大変さを実感した。</p> <p>【メンバー保健師】生活復旧が優先される中、健康の大切さを伝えることの難しさを痛感した。マニュアルや受援体制の整備が急務だと感じた。</p> <p>【連絡調整員】普段の業務では経験することができないようなことを経験することができた。</p>



(7) 7班

項目	内容
活動期間	平成 30 年 8 月 22 日から 8 月 28 日 (発災 46 日目～52 日目)
保健師活動の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・神奈川県担当エリアの 5 避難所巡回（施設衛生状況確認、健康相談）及び要支援者への継続支援。また、同エリアで避難所から自宅へ戻った要支援者への個別訪問。 ・災害時要援護者の 2 次調査訪問
班員の役割分担	<p>保健師：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミーティングや県庁への報告は、リーダーが実施。避難所巡回や健康相談、個別訪問においては、2 人で相談を行いながら対応。 ・記録類は、主に県・大洲市報告様式と個別記録に分けて分担して作成。 <p>連絡調整員：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回や訪問活動のための情報収集やマッピング、運転、活動記録(写真)、日報・活動写真等の県庁報告、前渡金管理。
他自治体等派遣チームの活動	<ul style="list-style-type: none"> ・県外派遣チーム 岩手県（保健師 2、事務員 2）、宮崎市（保健師 2、事務 1）⇒神奈川県と同様にエリア担当し支援実施。 ・日本看護協会災害支援看護師 2 ⇒日中の支援を引継ぎ、夕方から健康相談等支援実施。 ・栄養士 1 ⇒避難所巡回や個別健康相談等の支援実施。
活動を通じた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村職員が派遣となる場合、現地状況の情報提供が随時にできる仕組みが必要。 ・今回台風接近に伴い、前班の空港送りの時間が流動的であった。引継ぎの送迎を公用車で行うと支援活動で車を使用できない時間が生じるため、他の手段使用について臨機応変に対応できることが望ましい。
派遣保健師の生活で留意した点	<ul style="list-style-type: none"> ・熱中症予防対策、体調管理(睡眠、食事等) ・班員間でのコミュニケーションを図るよう心がける ・ON - OFF の切り替え
感想	<p>【リーダー保健師】災害時の活動は、平時の活動の積重ねや融合であると再確認した。多岐にわたる保健活動を行うため、日ごろから知識と技術力の向上を図る必要がある。</p> <p>【メンバー保健師】初めての災害派遣であったが、県の体制（引き継ぎ等を含め）が確立していたため不安等なく活動できた。</p>

(8) 8班

項目	内容
活動期間	平成30年8月27日(月)から9月2日(日) (発災51日目～57日目)
保健師活動の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所支援 ・要支援者フォローための訪問 ・活動終了チームからの引継ぎ等 <p>他県の派遣保健師チーム(岩手県、宮崎市)は、8月31日までの活動だったため、新たに肱川地区の引継ぎを受けた。</p> <p>また、市から応急仮設住宅等入居者健康調査の依頼を受けた。</p>
班員の役割分担	<p>保健師：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他県チームとの調整、活動記録作成 <p>(リーダー保健師：ミーティングでの報告・連絡、県庁への報告、引継ぎ書作成)</p> <p>連絡調整員：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運転、支援物資調整、前渡金管理、写真・記録物の送付
他自治体等派遣チームの活動	<ul style="list-style-type: none"> ・他県の派遣保健師と地区を分担して活動：岩手県、宮崎市は8月31日までの活動だったため、本県が岩手県分を、長野県(8月31日から)が宮崎市分を引継いだ。 ・災害支援ナースによる夜間巡回(8月31日まで) ・愛媛県：派遣調整等大洲市支援 ・日本栄養士会災害支援チーム：栄養士派遣
活動を通じた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・現地の情報を把握し、判断・相談のうえ、実行していくというサイクルを早く的確に実施することを求められるので、日頃からの保健師としてのスキルアップが欠かせないと思った。
派遣保健師の生活で留意した点	<ul style="list-style-type: none"> ・気温33℃を超える酷暑のため熱中症予防に努める ・チームワークよく活動するためにコミュニケーションを図る
感想	<p>【リーダー保健師】情報の整理の仕方やミーティングの体制等から、支援の受け入れ体制が整っていると感じた。また、フォローケースについては、前班から丁寧な引継ぎがあり、円滑に活動することができた。情報の整理と共有が、受援体制の整備に重要だと感じた。</p> <p>【メンバー保健師】今回、支援体制が変化する場面(支援チームが減り、避難所から仮設住宅等への移行準備)で活動できたことは、今後の支援・受援の両方を熟考</p>

項目	内容
感想	する契機となった。今回大洲市は災害関連死ゼロであると愛媛県から聞き、保健師活動の大きな成果であると実感した。学びが多く、濃縮した日々を送れたことに感謝したい。

(9) 9班

項目	内容
活動期間	平成30年9月1日から9月7日 (発災56日目～63日目)
保健師活動の概要	・避難所を巡回し、避難者の健康相談・健康管理・要支援者の家庭訪問、応急仮設住宅等入居世帯調査、記録等
班員の役割分担	保健師： ・個別記録（大洲市）、応急仮設住宅等入居世帯調査票の作成（リーダー保健師：日報（大洲市1種、県2種）・引継ぎ記録の作成、報告、県庁・現地大洲市との連絡調整等 連絡調整員： ・被害状況把握、保健師活動把握、運転業務、記録等
他自治体等派遣チームの活動	長野県：1チーム4人体制（保健師2名、事務職等2名）担当は大洲市の海側地域。 災害派遣看護師（看護協会）：活動振り返りカンファレンスの実施
活動を通じた課題	・9班からは、避難所巡回箇所が増えたり、応急仮設住宅等入居者調査も新たに加わったため、避難所巡回・家庭訪問回数を住民等の理解を得つつ、どうペースダウンしていくか、何を一番に取組む必要があるか（優先順位）悩みながらの活動となった。 ・山間部は道幅が狭いため、大型車よりは小型車の方が運転し易いと思うが、荷物や引継ぎのことを考えると悩ましい。
派遣保健師の生活で留意した点	・仕事以外の時間は、各々気分転換を心掛け、翌日の仕事に備えることが出来たと思う。
感想	【リーダー保健師】災害地に実際行ってみないと分からない、自治体の実状について、多くを学ぶことが出来た。 【メンバー保健師】フェーズや復旧状況に応じた保健師活動の必要性を学んだ。 【連絡調整員】災害時の対応にも発災から収束までの時期によって緩急をつける場合があることを学べた。

(10) 10 班

項目	内容
活動期間	平成 30 年 9 月 6 日から 9 月 12 日 (発災 62 日目～68 日目)
保健師活動の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 応急仮設住宅等入居世帯調査・健康調査 公営住宅の入居者の世帯調査・健康調査として家庭訪問を実施。 ・ 仮設団地入居世帯調査・健康調査 大駄馬仮設団地の入居者の世帯調査・健康調査として家庭訪問を実施。 ・ 避難所利用者の健康調査・運営状況等の確認 7 か所の避難所の利用者の健康調査・運営状況等の確認として避難所への訪問、避難所利用者のご自宅（以前避難所を利用し家庭に戻っている方も含む）への家庭訪問を実施。
班員の役割分担	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭訪問は基本的に 2 人で行った。行動計画は 2 人で相談をしながら計画、当初に計画をしたものを随時見直しながらすすめた。 山下→現地職員との連絡調整、スケジュール管理、報告書の作成 江藤→個別のケース記録の記載
他自治体等派遣チームの活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 長野県チーム 保健師 2 人、調整員 1 人で活動。活動内容は神奈川県チームと同様、地区を分担し活動を行っていた。長野県チームの担当している避難所がほぼ閉鎖となっていたことから、徳森仮設団地の世帯調査・健康調査を中心に活動されていた。
活動を通じた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 派遣の終了を検討する時期の活動だったため、実際に派遣を受入れる立場となった際の終了の時期の判断の難しさを感じた。 ・ 引継の時間が多く確保されていることから丁寧な引継が出来る一方、空港への送迎等の間は活動内容に限られるため検討が必要。 ・ 市町村は保健師の派遣の経験があまりないことから、事務手続きや費用面等をあらかじめ県から明示していただくと良い。
派遣保健師の生活で留意した点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 可能な限り時間内の活動を心がけ休息時間の確保に努めた。 ・ 活動場所と宿泊先が近距離であったことから、活動と活動外をあえて意識し気持ちの切替えに努めた。 ・ 派遣という非日常の環境での活動となるため、心身ともに健康であるために可能な限り「普段と同じ生活」となるよう、食事、運動、休養など生活の基本を整える事を意識し生活した。

項目	内容
感想	<p>【リーダー保健師】チームワークよく、自然と役割を分担しながら、充実した活動を行う事が出来た。長野県チームと情報交換を行う機会を作り、活動の方向性の確認が出来た事が印象に残っている。</p> <p>【メンバー保健師】愛川町保健師として初めて災害派遣を経験できた。県には災害派遣への積み重ねた経験、人材があり、組織として大きな強みであると感じた。日頃からの県との連携を密にし、万が一の際に備えたいと思う。</p>

(11) 11 班

項目	内容
活動期間	平成 30 年 9 月 11 日(火)から 9 月 17 日(月) (発災 66 日目～72 日目)
保健師活動の概要	<p>現地到着後に本県最終派遣チームになるとの連絡があり、通常の活動に加え、他県派遣チーム及び大洲市担当への引継ぎを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所及び避難所退所者の状況確認（人数・生活状況・健康状態） ・仮設住宅入居者の状況確認（人数・生活状況・健康状態） ・要フォロー支援者の家庭訪問及び関係者への連絡調整 ・本県最終チームとして、1 陣からの要フォロー者や記録等の点検 ・長野県チーム及び大洲市へ口頭及び文書にて引継ぎ <p>①活動全体の引継ぎ書②避難所及び要フォロー支援者等個別引継ぎ書③わかりやすい訪問先等への概略地図を作成。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大洲市より上記の引継ぎ書をデータで欲しいと要望あり、CD-R に保存し大洲市へ提出
班員の役割分担	<p>保健師：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談や家庭訪問での直接的な保健指導、個別記録 (リーダー保健師：チーム全体の調整、大洲市・県への報告書の作成) <p>連絡調整員：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県との連絡調整、訪問先への地図確認、車の運転 <p>※引継ぎ書①～③を 3 人で分担し、協力しながら作成</p>
他自治体等派遣チームの活動	<p>長野県チーム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所及び避難所退所者の状況確認（人数・生活状況・健康状態） ・仮設住宅入居者の状況確認（人数・生活状況・健康状態） ・要フォロー支援者の家庭訪問及び関係者への連絡調整

項目	内容
活動を通した課題	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模災害だけでなく、風水害、土砂災害はいつ起こるかわからないことを前提とした平時からの取組みや準備が必要であること ・日頃から、職員や住民への災害等への危機意識を高めてもらう啓発活動の重要性 ・県と市町村（寒川町の場合には、寒川町と茅ヶ崎市役所）との連携を日頃から深める必要性 ・若手保健師も災害時対応できるように、いろいろな業務を経験できるような、ジョブローテーションを取り入れること
派遣保健師の生活で留意した点	<ul style="list-style-type: none"> ・チーム内でのコミュニケーションを取ることを大切にしたい ・三食しっかりと食べる
感想	<p>【リーダー保健師】担当する管内で同様な災害が起きてしまった時に、地図の準備や台帳整備、様々な派遣チームに対応できるものか不安になりました。平時から地区把握と受援体制の準備の必要性を改めて感じたところです。</p> <p>【メンバー保健師】町、県、家族等多くの支援を頂き、素敵なチームメンバーと、貴重な経験ができたことに感謝しています。この経験を日頃の活動につなげることがこれからの課題です。今まで培ってきた保健師としての経験が、町を離れても人々の役に立つことが実感できとても楽しかったです。</p> <p>【連絡調整員】前班の引継ぎで現場に同行してもらえたため、訪問先に迷わずに行くことができ、よかったです。</p> <p>前班の帰県時に松山空港まで送ったが、その間は車を使用するため、保健師の訪問活動はできなかった。現地の復旧状況や活動場所にもよるが、公共交通機関を活用することで、保健師の活動時間をより多く確保できるのではないかな。</p> <p>新しく作成したビブスは、物品を身に着けて活動するのに役立った。</p>



7 保健師派遣活動における課題

(1) 各保健福祉事務所・センター

ア 良かった点

- ・ 年度当初に事前に派遣者リストを登録していたため、心構えと家庭内の調整をすることができた。
- ・ 今回のように県と市町村の合同でのチーム編成は、災害に対する課題共有や人材的交流ができ今後につながった。
- ・ 活動報告は、iPad による報告書がタイムリーであり適切であった。

イ 課題

- ・ 派遣保健師を出すことが難しい。
主な理由：職員数が少ない、育児時短勤務等の職員が多い、突発的な業務への対応等
- ・ 業務を補う体制づくりが困難なため、事務職の派遣が難しい。
- ・ 若手保健師の派遣経験が少ない。
- ・ 今回の派遣では、派遣保健師の業務調整を行い所内でフォローできた。ただし、派遣保健師が部長または課長であった場合、判断してもらえる上司や上席保健師のフォロー体制が必要である。
- ・ iPad サーバ内の活動報告の閲覧について、所内職員に周知不足だった。

(2) 市町

ア 良かった点

- ・ 派遣を通じて、災害時マニュアルの作成の必要性を感じ、取組みを開始する機会となった。
- ・ 市町村が単独で災害派遣を経験することは難しい。様々な災害派遣を経験している県保健師と共に活動することで、貴重な経験となった。

イ 課題

- ・ 発災した際、保健師がどのように働くのか、まだ不明確であり、保健師が果たせる機能を庁内に対してアピールする必要があると感じた。
- ・ 派遣前に現地情報の提供が、タイムリーに入手できない。
- ・ 費用負担など、派遣に関するサービスを明確にした状態で派遣協力の連絡がもらえると良かった。

(3) 健康増進課

ア 良かった点

- ・ 現地での引継ぎ時間を十分に確保できた。
- ・ フォローアップミーティングに市町村保健師及び連絡調整員にも参加していた

だき、情報共有やこころのケアの充実が図られた。

イ 課題

- ・ 派遣可能な県保健師の確保が困難である。（主な理由は、保健福祉事務所・センターにおける課題に記載のとおり）
- ・ 県と市町村保健師の派遣チーム調整が難しい。
- ・ 市町村保健師の派遣調整に係る総務室との連携体制や書類の整備等が不十分である。
- ・ 災害の種類や被災状況に応じた物品の内容（種類・量）の検討が必要である。
- ・ 現地での活動車両が大きいため、移動が不便である。一方、引継ぎの際には、派遣人数が全員乗車する機会があり、大きい車両が必要であり、活動車の選定が難しい。
- ・ 派遣延長・終了時期の判断が難しい。

8 報告会等

(1) 平成30年7月豪雨の神奈川県支援 報告会

ア 目的

- ・ 平成30年7月豪雨の被災自治体に対し、神奈川県として実施した支援の概要説明を行い、その支援の成果を共有する。
- ・ 支援を通じて得た経験等を、神奈川県の取り組みに生かすため、多くの職員（市町村職員も含め）に報告会を通じて共有することにより、神奈川県の防災体制の強化を図る。

イ 日時・場所

平成30年10月12日（金）9時から10時まで
神奈川県第二分庁舎 6階 災害対策本部室

ウ 主催

くらし安全防災局災害対策課

エ 報告項目

- (ア) 避難所運営支援等業務（くらし安全防災局職員）
- (イ) 保健師等活動業務（健康医療局職員）
- (ウ) 避難所運営支援業務（くらし安全防災局職員）
- (エ) 農業用のため池の緊急点検調査に係る業務（県土整備局職員）
- (オ) 応急仮設住宅の建設に係る業務（県土整備局職員）
- (カ) 公共土木施設の復旧・復興対策に係る業務（県土整備局職員）

(キ) 緊急消防援助隊の活動（横浜市消防局職員）

(ク) 岡山県・広島県被災現場視察結果（くらし安全防災局職員・県土整備局職員）

(2) 平成30年7月豪雨災害に係る派遣職員フォローアップミーティング

ア 目的

- ・ 今回の豪雨災害に係る支援活動の経験を共有し、今後も起こりうる他県への被災者支援活動を円滑に行うための体制整備や本県における災害発生時の対応について示唆を得る。
- ・ 被災者支援活動に従事した派遣職員は、身体的・精神的に疲労をきたしやすい状況にあり、派遣終了後に心身の変調や異変をきたすこともあるため、派遣職員の健康状態を把握し、必要に応じてフォローにつなげるきっかけとする。

イ 日時・場所

平成30年10月23日（火）14時00分～16時00分

神奈川県本庁舎 3階 大会議場

ウ 内容

(ア) 支援活動報告

- ・ 健康増進課から災害の概要や活動スケジュール等について、報告
- ・ 愛媛県大洲市保健師からの聞き取り、保健所のかかわりについて
- ・ 愛媛県大洲市保健師との話し合いについて

(イ) グループワーク

- ・ 被災者支援の経験から感じたこと（学び、課題、要望等）

エ 主催

健康医療局健康増進課

(3) 平成30年7月豪雨災害に係る派遣職員の活動報告会

ア 目的

実際に愛媛県大洲市にて活動した保健師による報告を実施することで、今回の豪雨災害に係る支援活動の経験を共有し、今後も起こりうる他県への被災者支援活動を円滑に行うための体制整備や本県における災害発生時の対応について示唆を得る。

イ 日時

平成30年10月23日（火）16時15分～16時45分

神奈川県本庁舎 3階 大会議場

ウ 内容

- (ア) 愛媛県大洲市保健師チームの活動概要
(健康医療局健康増進課)
- (イ) 被災地派遣報告
(小田原保健福祉事務所足柄上センター保健予防課)
- (ウ) 愛媛県大洲市保健師チームの活動について
(愛川町健康推進課)

エ 主催

健康医療局総務室

9 その他

- (1) 報告会資料
 - ・ 愛媛県大洲市 保健師チームの活動について
(平成30年7月豪雨の神奈川県支援 報告会)
 - ・ 愛媛県大洲市保健師チームの活動概要
 - ・ 被災地派遣報告
 - ・ 愛媛県大洲市保健師チームの活動について
(平成30年7月豪雨災害に係る派遣職員の活動報告会)



愛媛県大洲市 保健師チームの活動について

鎌倉保健福祉事務所三崎センター(第1陣)
愛川町健康推進課 (第10陣)

第1陣 平成30年7月24日(火)～30日(月)

第10陣 平成30年9月6日(木)～12日(水)

保健師チームの活動について

- 1 派遣地域の概要
- 2 保健師チームの活動
- 3 まとめ

1 派遣地域の概要

愛媛県大洲市

三浦市 43,221 人

人口 43,825 人
世帯数 20,061 人
面積 432.22 km²
高齢者人口割合 33.4 %

横浜市面積 437.49km²



Kanagawa Prefectural Government

2

■被害の状況

大洲市の中心を流れる肱川は、7月7日朝に氾濫し、周辺の大洲市内広い範囲で住宅が浸水した。

死者 4 人 行方不明 1 人
住宅床上浸水 2,296 棟
住宅床下浸水 818 棟

土砂崩れ

58か所

大洲市 8月30日



Kanagawa Prefectural Government



3

2 保健師チームの活動について

- 愛媛県より派遣依頼
- 平成30年7月24日(火)
～9月17日(月)
- 全11陣 1チーム3名
保健師2名+連絡調整員1名

■ 活動拠点は大洲市保健センター



避難所で健康課題を把握



平公民館(23名)



大川公民館(13名)

Kanagawa Prefectural Government



東集会所(3名)



菅田小学校体育館(17名)



定林寺(2名)

6

避難所の状況

冷房は効いていたが
日中は、猛暑の中、
家の片付け等の屋外作業が続いた



暑さ対策



スポットクーラー

段ボールベッド



床からの振動が伝わりにくい。
ほこり対策
立ったり座ったりしやすい。

■ 避難所のアセスメント

体調はどうか？



日中は仕事や片付けのため、
ほとんど人がいない状態



衛生面はどうか？

8

■ 健康相談・家庭訪問

避難所での健康相談



地域を家庭訪問



9

■ 要フォロー者を支援につなげる



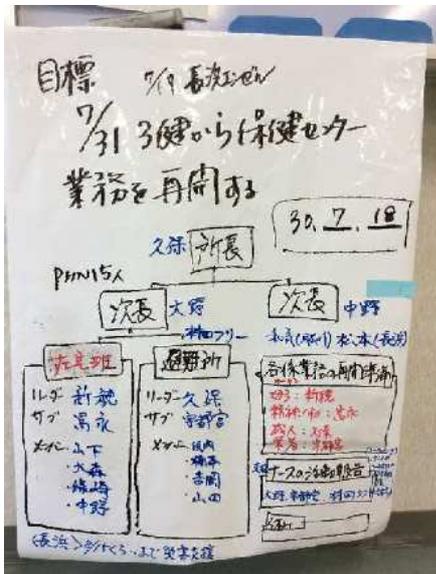
サービスを利用してない高齢者
⇒ 市保健師のフォロー



避難所の食事が食べられない高齢者
⇒ 在宅栄養士の相談

■ 情報の見える化

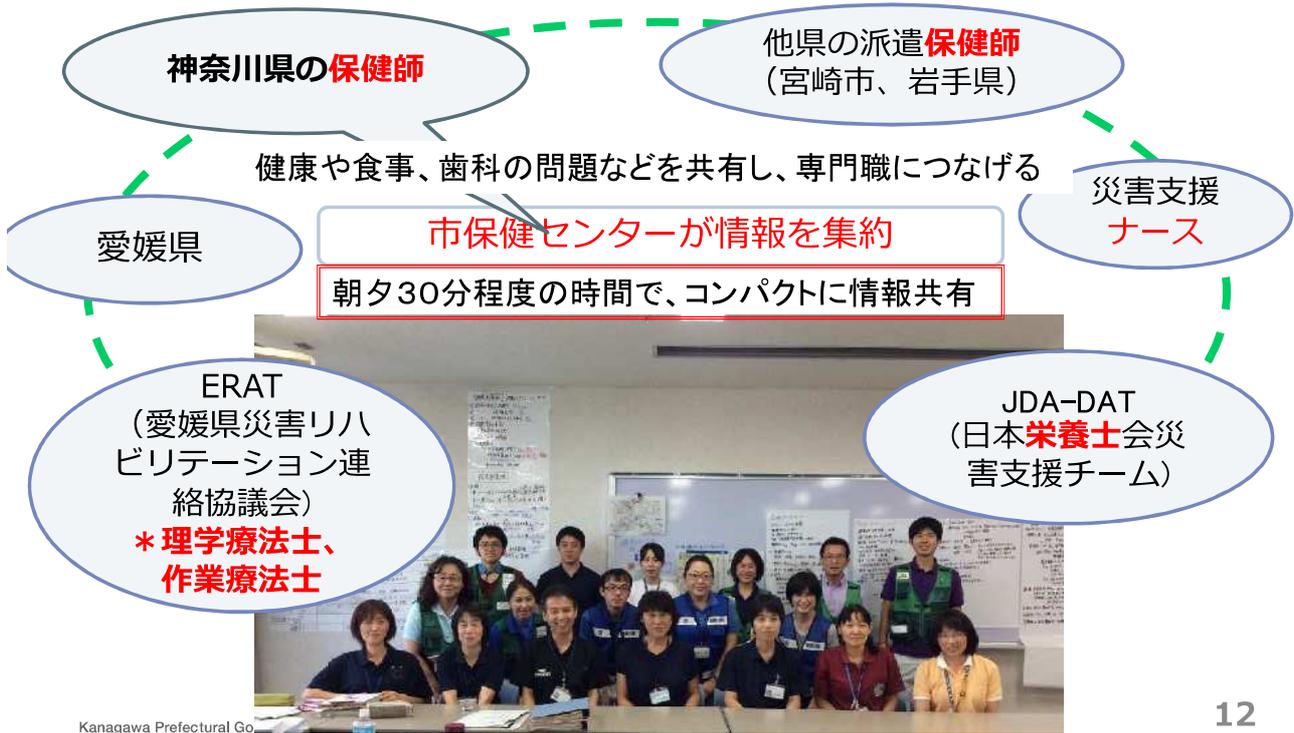
朝夕ミーティングの
内容を掲示



避難所毎のファイル
世帯毎に支援記録等も含め一元化



■ 朝夕ミーティングで専門職が連携



12

■ 避難所生活の長期化

応急仮設住宅(公営住宅等一時利用含む) への入居が開始
閉鎖される避難所が増加



生活再建に向けて準備が進まない方へ
必要物品の確認を支援

未修繕の市営住宅は、床板が無く、基礎がむきだし

汚水漏れの家に住む居住者を発見、市保健師へ連絡
緊急でバキュームカーの手配と配管工事を依頼



Kanagawa Prefectur

13

■ 応急仮設住宅等入居者健康調査



「雨降りは、大きな水溜りができて外出できない」
という相談 → 市保健師に報告

大駄馬仮設団地（14世帯）

公営住宅一時使用者（6ヶ所10世帯）

Kanagawa Prefectural Government

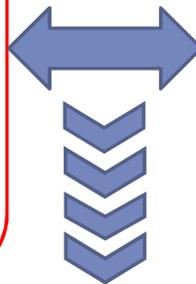
14

■ 活動終了の検討

県外保健師チーム
(神奈川県・長野県)

- 個別支援が必要なケースを絞込
- ↓
- 手厚い健康支援から
通常の健康支援への転換
- ↓
- 活動終了を見据えた対応の検討

情報共有の
必要性



大洲市保健師

- 通常の保健事業を再開
- 継続支援対象者の把握

(9月11日)保健師ミーティング

大洲市2名 神奈川県2名、長野県2名

- 継続支援の必要なケースを情報共有
- 支援件数から、活動チームは1チームに集約

3 まとめ

■ 平常時から取り組むこと

- 災害を想定した所属の体制や対応を具体的に考えておく
- 日ごろから保健所と市町村の円滑な関係を（災害における役割分担と連携）
（研修会や研究会の開催、災害訓練の実施）
- 地域の情報を整理し、まとめておく
（地域全体がわかる大きな地図は必要）
（薬の管理や健康手帳の携帯等の啓発等）

保健師活動チーム発表



愛媛県大洲市 保健師チームの活動概要

健康医療局健康増進課

■ 愛媛県大洲市

人口 43,825 人
世帯数 20,061 人
面積 432.22 km²
高齢者人口割合33.4 %



平成30年7月豪雨災害の概要

- 平成30年6月28日から7月8日
西日本を中心に、全国的に広い範囲で記録的な豪雨が発生
- この大雨で1府10県に特別警報が発表
岐阜県、京都府、兵庫県、岡山県、鳥取県、広島県、愛媛県、高知県、福岡県、佐賀県、長崎県

**7月7日朝 大洲市の中心を流れる肱川が氾濫
周辺の大洲市内広い範囲で住宅が浸水**

派遣概要

- 愛媛県から派遣要請(厚生労働省経由)
- 派遣期間:平成30年7月24日(火)
~9月17日(月)
- 全11陣 1チーム3名
保健師2名+連絡調整員1名
* 市町村保健師6名含む(6~11陣)

活動概要

- 避難所における活動
 - ・健康課題の把握
 - ・巡回による健康相談
 - ・熱中症予防や感染症予防等の普及
- 被災者の家庭訪問による保健指導
 - ・要支援者フォローのための訪問
- 応急仮設住宅入居者等への健康調査 等



愛媛県イメージアップキャラクター
みきやん

被災地派遣報告

神奈川県小田原保健福祉事務所足柄上センター

内容

- 1 被害の状況
- 2 活動の概要
- 3 実際の保健活動の内容(活動初期)
- 4 まとめ

神奈川県西日本豪雨被災者支援のための職員派遣 第3陣(8/3~8/8)

調整員



保健師
(2名)

1 被害の状況

平成30年7月豪雨による被害

6月28日以降の台風第7号や梅雨前線の影響により、西日本を中心に全国的に広い範囲で豪雨となった。

大洲市の中心を流れる肱川は、7月7日午前8時54分に氾濫、周辺の大洲市内の広い範囲で住宅が浸水した。

死者4人 行方不明1人
住宅床上浸水 2,296 棟
住宅床下浸水 818 棟

土砂崩れ

58か所
大洲市8月31日



被災地の状況①



被災地の状況②



被災地の様子③



水色の線まで
水位上昇



市営住宅

保健師も被災、様々な思い

震災をきっかけに
病欠になった
保健師
(1名)

親が被災し、介護が
必要になった保健師
(1名)

自宅が
床上浸水した
保健師(3名)

<大洲市保健師との話し合い>

- 「保健師たちも、災害時はテンションが上がっており、気もたっている状態で、意見を1つにまとめることが本当に大変だった。」
- 「職員をつぶさないようにすることを優先して対応した。」

2 活動の概要

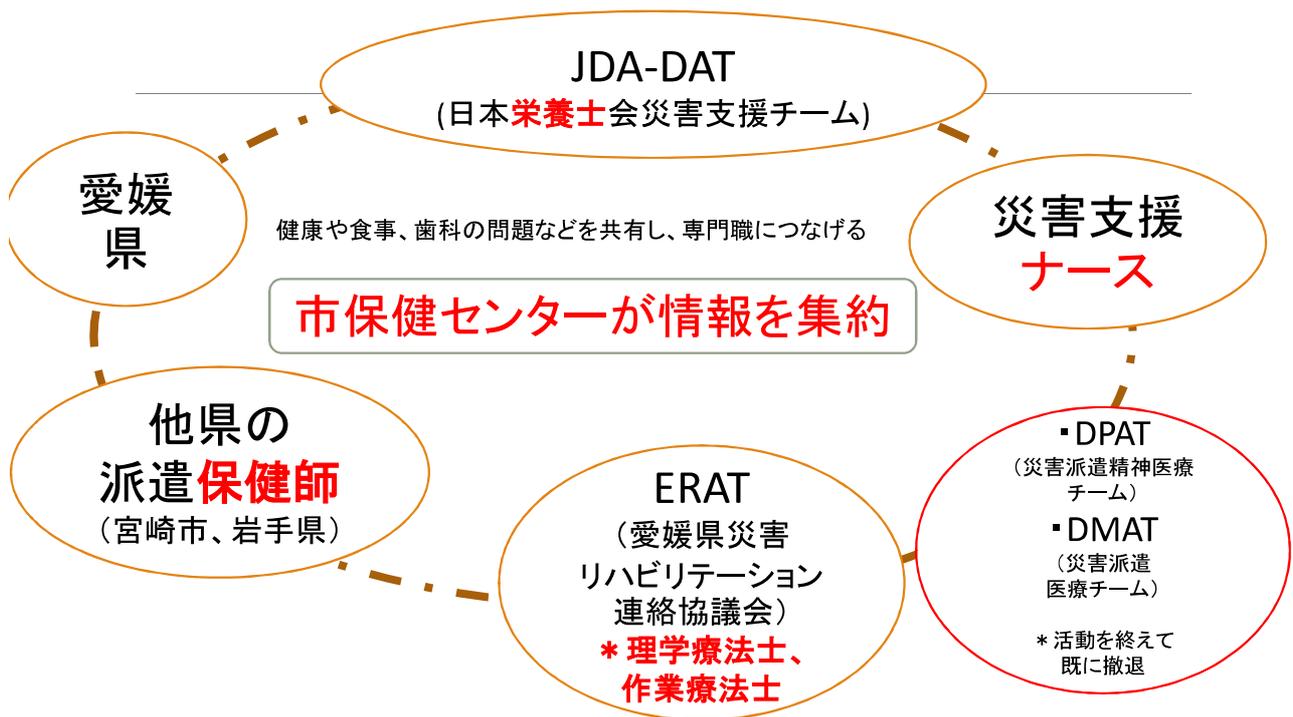
活動拠点は大洲市保健センター



ミーティングにて情報共有

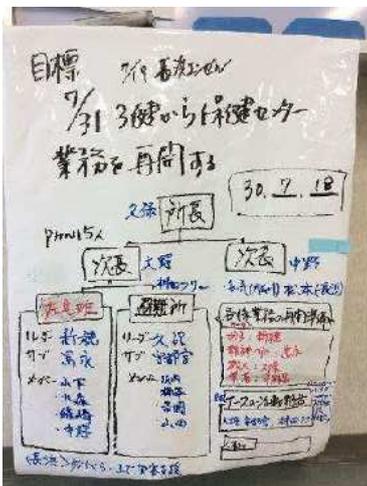


- ・大洲市保健センターにて朝、夕方の2回、情報共有を目的としてミーティングを実施
- ・30分程度で情報はコンパクトに
- ・3陣参加時から土日は開催せず



情報の見える化

朝夕ミーティングの内容を掲示



避難所毎のファイル
世帯毎に支援記録等も含め一元化



3 実際の保健活動の内容 (活動初期)

第3陣の主な活動

第2陣からの引継ぎを受けて・・・



- 避難所のアセスメントや健康相談
 - ・管理者との連絡調整
(ある避難所では、被災者の対応のため、
管理者が疲弊気味であった)
- 要フォロー者の健康状態の把握

避難所で健康課題を把握



平公民館(23名)



菅田小学校体育館(17名)



東集会所(3名)



大川公民館(13名)



定林寺(2名)

避難所の様子



＜公的避難所＞
ダンボールで
区切って
生活

＜自主的避難所＞
地域のつながりが
強い場合、
ダンボールの区切り
もない





基本的に日中は、自宅の掃除等に出かけており、避難所にはいない。
→支援の場所は避難所だけではない！！

被災者の声

「血圧が気になっていて…測ってください」

「家から逃げられなくて大変だったんですよ…」

対照的



大丈夫ですから…
本当にいいですから…

要フォロー者を支援につなげる



サービスを利用していない高齢者
⇒ 市保健師のフォロー



避難所の食事が食べられない高齢者
⇒ 在宅栄養士の相談

3 まとめ

■ 平常時から取り組むこと

- 災害を想定した所属の体制や対応を具体的に考えておく
- 日ごろから保健所と市町村の円滑な関係を築く
(災害における役割分担と連携)
(研修会や研究会の開催、災害訓練の実施)
- 地域の情報を整理し、まとめておく
(地域全体がわかる大きな地図は必要)

愛媛県大洲市 保健師チームの活動について



愛川町健康推進課

(第10陣)

愛媛県大洲市 保健師チームの活動について

- 保健師の派遣に参加した経緯
- 実際の保健活動の内容
- 保健師活動終了の検討
- 市町村保健師として参加して

保健師の派遣に参加した経緯①

- 災害派遣要請に応じても、マッチングが合わない。
- 中長期派遣では、職員を出すのは難しい。
- 災害派遣を経験する市町村が増える中で、本町は、誰も経験できていない。



保健師の派遣に参加した経緯②

- 平成30年7月19日付
「今後の被災状況等によっては、
市町村に協力をお願いする可能性がある」



- 「今回は、本町の保健師の
誰かが行けるかもしれない。」
「これは、**愛川町**にとって、チャンスだ！」

保健師の派遣に参加した経緯③

○平成30年7月30日付

「県職員とともに被災地支援を行う保健師を派遣できる場合は・・・」 **すぐに上層部へ報告。**

小野澤 豊 愛川町長より

「保健師を派遣する。**災害派遣の経験は大切**」

「現地で保健師が困らないように、万全の準備をすること。」

町長自ら、人事・財政・会計等の課長に指示。

保健師の派遣に参加した経緯④

第10陣として、災害派遣が決定

「愛川町を代表する」

「被災地支援に全力を尽くす」

「大洲市の保健師さんが

どのような活動をしているのか」

「神奈川県の保健師さんが

どのような活動をしているのか」

実際の保健活動の内容①

～災害発生から2か月が経過～

避難生活の長期化



- ・まだ、ダンボールや
コルクボードでの仕切りで生活
- ・『水害の直後は、1日に3チームから
同じ話をきかれたことがある』

実際の保健活動の内容②

応急仮設住宅 への入居開始



大駄馬（15戸）

徳森（45戸）

実際の保健活動の内容③

第9陣からの引継ぎを受けて・・・

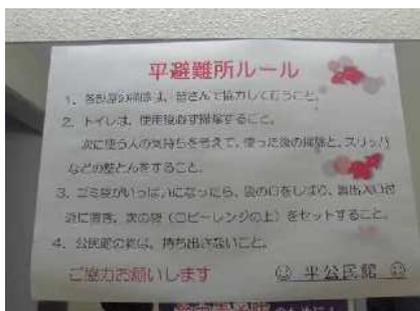


- 避難生活の長期化への支援
- 応急仮設住宅等入居者健康調査の実施
- 継続支援ケースの情報共有ミーティング

実際の保健活動の内容④

避難生活の長期化

仮設住宅やみなし仮設への入居が決定
市からの生活必需品等の配布



家庭訪問 避難所巡回

引越しの準備が大変

2つの場所を行き来するのは大変ですね

生活必需品いつ、届くの？

申し込み順に9月末頃までに

申込控えがない何を申し込んだか？

品目は、タオルケット、敷布団、サンダル、フライパン、包丁、カセットコンロ、石鹼、トイレットペーパーなどですね。



実際の保健活動の内容⑤

未修繕の市営住宅は、
床板が無く、基礎がむきだし
汚水漏れの家に住む居住者を発見

神奈川県保健師チームが
継続支援をしていたケース

大洲市保健師へ連絡し、緊急で
バキュームカーの手配と
配管工事を依頼



継続フォローが必要→大洲市保健師さんへ

実際の保健活動の内容⑥

応急仮設住宅等入居者健康調査

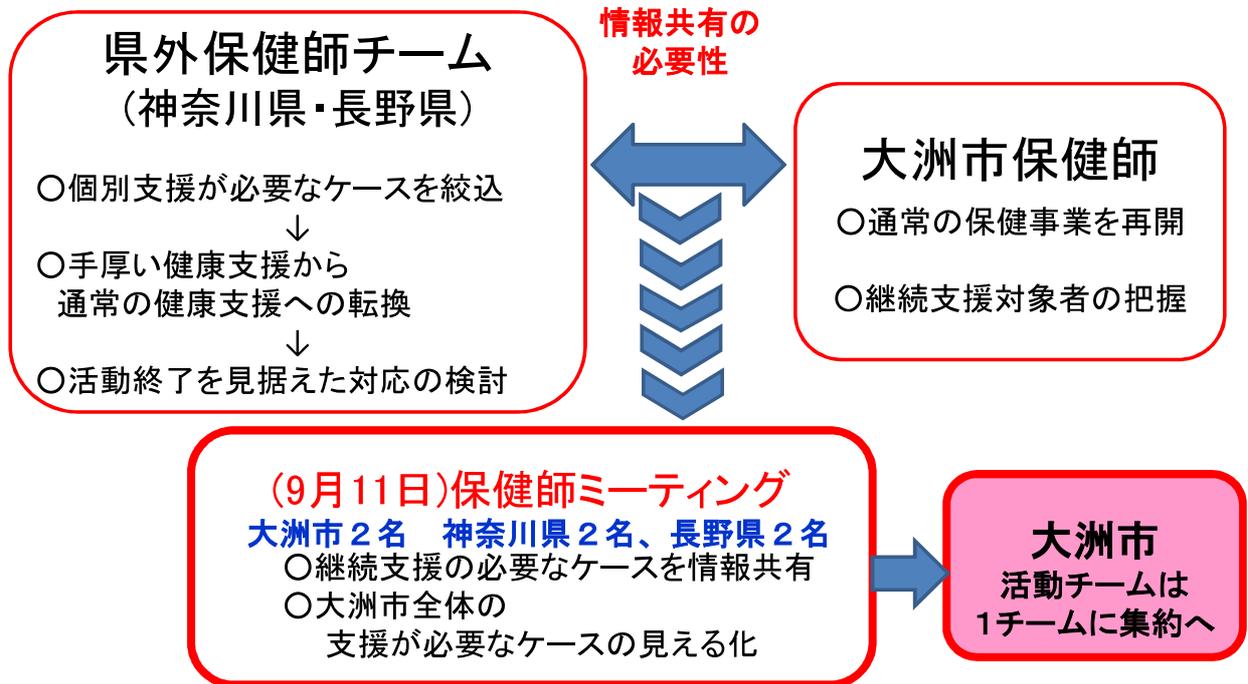


大駄馬仮設団地(14世帯)
公営住宅一時使用者(6ヶ所10世帯)

「雨降りは、大きな水溜りができて外出できない」
という相談 ⇒ 市保健師に報告

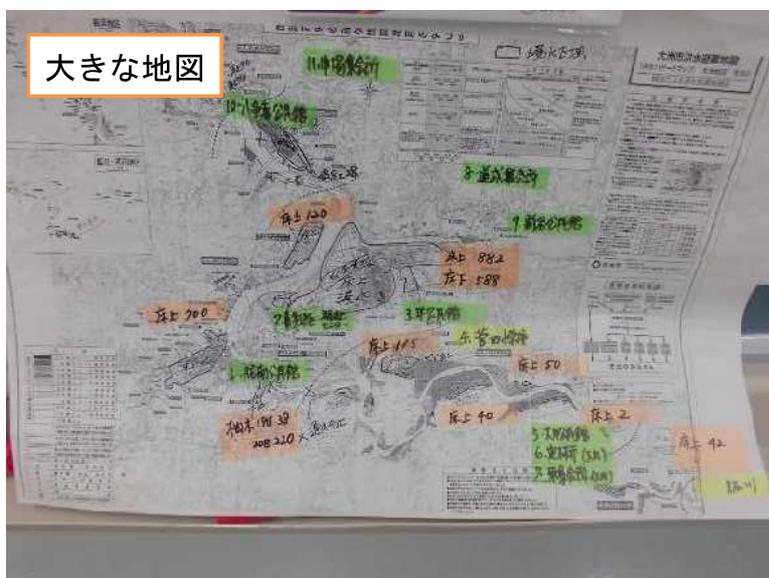
保健師活動終了の検討

継続支援ケースの情報共有ミーティング



市町村保健師として参加して①

「大洲市が愛川町だったら」という視点で得た学び
 ～ 「受援力」を上げる ～



支援の際に必要な情報や媒体



市町村保健師として参加して②



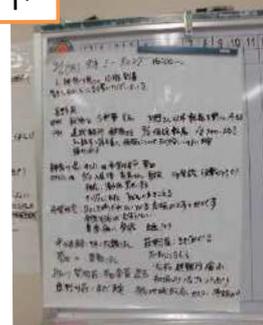
記録用紙・ファイル



掲示板



どこでもシート



市町村保健師として参加して③

**平時の保健師活動が
災害対策につながる**

- ・災害時要援護者名簿の活用
(障害・高齢部門との連携)
- ・広域避難所の運営
(介護性のある住民をどのように受けとめるか)
- ・個別ケースへの支援
(いわゆる災害弱者は、
被災時に、さらに弱者になる)
- ・市町村間の連携
(近隣市町村の支え)



平成16年の
台風被害の浸水域



市町村保健師として参加して④

神奈川県の保健師さんから得た学び

東日本・熊本など
被災者支援を繰り返し経験



保健師だけでなく
多職種の専門職の存在

大洲市の保健師さんが
「県の保健所の存在が心強かった」
と話されていました

万が一、災害発生したら、県へSOSを発信
日頃からの県との連携・役割分担、後方支援のお願い



玄関に、キャットフードが置かれ、
周りに大量のハエがいる家庭に
獣医師の立場で指導されていました



大洲城



貴重な経験をさせていただき、
ありがとうございました！！

(2) 日々の活動記録様式

神奈川県 様式 10

日報（派遣引継ぎ事項等）

月日（曜日）	平成30年 月 日（ ） 活動時間 時 分～ 時 分
班 名	
現地の状況 （店・医療機 関など生活環 境等）	
被災者の状況 （物資や生活 状況など）	
活動の概要	
派遣職員 の状況	
前渡金の 使用状況	使用金額： 円（残額 円） 内 容：
その他	

(3) 地域保健・健康増進事業報告様式

地域保健・健康増進事業報告用 (神奈川県実施分)

派遣チーム名

1 保健指導 (母子)

	月日														計
妊婦	実														0
	延														0
産婦	実														0
	延														0
乳児	実														0
	延														0
幼児	実														0
	延														0
その他	実														0
	延														0

2 健康増進指導

ア栄養指導	月日														計
妊産婦	実														0
	延														0
乳幼児	実														0
	延														0
20歳未満	実														0
	延														0
20歳以上	実														0
	延														0

イ運動指導	月日														計
妊産婦	実														0
	延														0
乳幼児	実														0
	延														0
20歳未満	実														0
	延														0
20歳以上	実														0
	延														0

3 精神保健福祉相談

	月日														計
老人性精神	実														0
	延														0
社会復帰	実														0
	延														0
アルコール	実														0
	延														0
薬物	実														0
	延														0
思春期	実														0
	延														0
心の健康づくり	実														0
	延														0
その他(鬱)	実														0
	延														0

4 衛生教育

	月日														計
感染症	実														0
	延														0
精神	実														0
	延														0
難病	実														0
	延														0
母子	実														0
	延														0
成人・老人	実														0
	延														0
栄養・健康増進	実														0
	延														0
歯科	実														0
	延														0
その他	実														0
	延														0

5 健康増進事業（健康相談）

	月日														計
	実														0
	延														0

	月日														計
	実														0
	延														0

6 職員の健康相談

	月日														計
職員	相談者														0
	血圧測定														0

(4) 持参物品

7月23日(活動開始全日)に車便で発送

		品目	個数
【訪問バッグ】	<input type="checkbox"/>	訪問バッグ	2
	<input type="checkbox"/>	冷却材(25個パック)	2
【消毒液類】	<input type="checkbox"/>	精製水 500ml	3
	<input type="checkbox"/>	次亜塩素酸ナトリウム500ml	3
	<input type="checkbox"/>	オスバン500ml	3
	<input type="checkbox"/>	消毒用アルコール500ml	5
	<input type="checkbox"/>	手指消毒用アルコール(手ピカジェル)	4
	<input type="checkbox"/>	ティッシュ	10
	<input type="checkbox"/>	薬用せっけん	2
	【医薬品】	<input type="checkbox"/>	冷シップ
<input type="checkbox"/>		うがい薬	2
<input type="checkbox"/>		熱さまシート	2
<input type="checkbox"/>		傷軟膏	3
<input type="checkbox"/>		清浄綿	1
<input type="checkbox"/>		マスク	5
【衛生用品】	<input type="checkbox"/>	袖付きエプロン10枚入	2
	<input type="checkbox"/>	手袋(S/Mサイズ)	2
	<input type="checkbox"/>	包帯7.5cm×9m 10個入	2
	<input type="checkbox"/>	キューマスク 10個入	1
	<input type="checkbox"/>	血圧計	3
	<input type="checkbox"/>	ステンレストレー	1
【衛生用品】	<input type="checkbox"/>	ペーパータオル	6
	<input type="checkbox"/>	大人のおしりふき	1
	<input type="checkbox"/>	ウェットティッシュ	2
	<input type="checkbox"/>	ぬれタオル	2
	<input type="checkbox"/>	三角巾(大)	3
	<input type="checkbox"/>	軍手	適量
【生活用品】	<input type="checkbox"/>	紙皿類	適量
	<input type="checkbox"/>	アルミ	1
	<input type="checkbox"/>	サランラップ	1
	<input type="checkbox"/>	割り箸	適量
	<input type="checkbox"/>	スプーン&フォーク	適量
	<input type="checkbox"/>	ハンドタオル3枚組	3
	<input type="checkbox"/>	バスタオル	2
【生活用品】	<input type="checkbox"/>	トイレットペーパー	1
	<input type="checkbox"/>	ヘッドランプ	3
	<input type="checkbox"/>	ラジオ	1
	<input type="checkbox"/>	防犯ベル	3
	<input type="checkbox"/>	ビニール袋	適量

		品目	個数
【ビブス】	<input type="checkbox"/>	ビブス	6
	<input type="checkbox"/>	ジャンパー	6
【保健指導用】	<input type="checkbox"/>	様式類（ファイル）	1
	<input type="checkbox"/>	パンフレット類	適量
	<input type="checkbox"/>	用紙（500枚）	1
	<input type="checkbox"/>	筆記用具セット	1
	<input type="checkbox"/>	ノート	2
	<input type="checkbox"/>	フラットファイル	10
	<input type="checkbox"/>	テープ類	適量
	<input type="checkbox"/>	防犯ベル	3
【水】	<input type="checkbox"/>	水（2ℓ）×6本	1
	<input type="checkbox"/>	水（500ml）×24本	1
【パソコン】	<input type="checkbox"/>	パソコン	1
【プリンター】	<input type="checkbox"/>	プリンター（コピー機能付き）	1
【通信】	<input type="checkbox"/>	i-pad	1
	<input type="checkbox"/>	携帯	1

		品目	個数
訪問バッグ の中身	<input type="checkbox"/>	聴診器	1
	<input type="checkbox"/>	血圧計（手動）	1
	<input type="checkbox"/>	絆創膏	1箱
	<input type="checkbox"/>	ディスプレイ手袋	4枚
	<input type="checkbox"/>	手指消毒剤 ウェルパス	1
	<input type="checkbox"/>	消毒用アルコールジェル手ピカジェル	1
	<input type="checkbox"/>	名札	2
	<input type="checkbox"/>	つめきり	1
	<input type="checkbox"/>	毛抜き	1
	<input type="checkbox"/>	体温計	1
	<input type="checkbox"/>	ペンライト	1
	<input type="checkbox"/>	アルコールウェットティッシュ	1
	<input type="checkbox"/>	タオル	3
	<input type="checkbox"/>	ジップ付袋	2
	<input type="checkbox"/>	電卓	1
	<input type="checkbox"/>	ハサミ	1
	<input type="checkbox"/>	キューマスク	1
	<input type="checkbox"/>	マスク	数枚
	<input type="checkbox"/>	包帯	1
	<input type="checkbox"/>	医療用テープ	1
	<input type="checkbox"/>	サロンパス	数枚
	<input type="checkbox"/>	熱さまシート	2枚
	<input type="checkbox"/>	バインダー	1
	<input type="checkbox"/>	エプロン	1
	<input type="checkbox"/>	筆記用具セット・付箋	1
	<input type="checkbox"/>	アルコール綿（個包装）	数枚
	<input type="checkbox"/>	ガーゼ	3
	<input type="checkbox"/>	ディスプレイシート	1



健康医療局保健医療部健康増進課
横浜市中区日本大通 1 丁目 231-8588
電話(045)210-1111(代) FAX(045)210-8857